

科目ナンバー	HUL-B-2-02		
授業コード	31035		
科目名	文化とまちづくり入門		
担当者	禿 あや美		
開講期	2022年度春学期	科目区分	週間授業
履修開始年次	1年	単位数	2単位
曜日/時限	木曜3限	授業の方法	講義
授業題目	文化を生かした地域活性化		
授業の達成目標	文化の持つ力をいかし、地域を元気にするために活動している事例を知り、日本の地域社会の現状と課題を理解できること、そしてそれらの問題を解決するために文化のもっている力をいかに活用できるかの両面を理解することを目標とする。		
今年度の授業内容	<p>「まちづくり」が全国の至る所で行われています。なぜでしょうか？それは少子高齢化や産業の空洞化（製造業等が日本ではなく外国へ移転してしまうこと）などにより、地域社会に活気がないところが増え、それが常態化したからです。まちに元気がないと子どもが安心して生活できません。犯罪も起きやすくなるでしょう。なにより地震のような災害の時にうまく対処することができません。まちを元気にすることは、老若男女関係なくすべての人々にとって、暮らしやすさを向上させる必須のものです。では町を元気にするにはどうすれば良いのでしょうか。いま、注目されるのは、文化の持つ力を生かしたまちづくりです。この講義では、アート、スポーツ、町並みづくり、ビジネス作り、ゆるキャラなどの文化の持つ力をいかして地域を元気にしている事例を取り上げ、日本のいまを理解し、将来を展望していきたいと思えます。</p>		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間について	<p>授業中に紹介する文献や記事を読んで、復習すること。またそれが次の授業の予習にもつながることを理解すること。それらを読むことは知識の習得のみではなく、最終的には自分なりの考察や見解を形作るために読むものだとして心を得ること。文献等を読むには1回あたり30分もかからない分量となります。また、毎回の授業では視野を広げるための簡単な質問を2つほどします。それに対する回答を集約して、その次の週の授業で全員に公開します。他の学生がどのような意見を寄せたのかを読むことで、自分の視野がひろがり、授業の理解も深まります。そのファイルの一部は授業中でも紹介しますが、各自復習として、毎回ちゃんと読むようにしてください。</p>		合計60時間
自習に関する一般的な指示事項	<p>毎回、パワーポイントをPDFにした資料を、ポータルとTEAMSで配布する。その他、必要な補足資料も配布するので、それを見ながら、参考文献や参考資料を見ながら復習に活用すること。</p>		
授業スケジュール			
第1回	イントロダクション		
第2回	日本のまちに起こっている課題はなにか？		
第3回	ソーシャルキャピタルと市民組織、ビジネス①		
第4回	ソーシャルキャピタルと市民組織、ビジネス②		
第5回	コンテンツ産業とまちづくり① コンテンツ産業の特徴		
第6回	コンテンツ産業とまちづくり② キャラクターを用いた地域活性化		
第7回	コンテンツ産業とまちづくり③ 聖地巡礼		
第8回	スポーツ産業とまちづくり ①プロスポーツと地域活性化		
第9回	スポーツ産業とまちづくり② スポーツ人材の育成環境の整備		
第10回	スポーツ産業とまちづくり③ 国際スポーツイベントと地域活性化		
第11回	アートとまちづくり① アートと子ども		
第12回	アートとまちづくり② 公共部門とアート		
第13回	アートとまちづくり③ アーツマネジメント人材		
第14回	アートとまちづくり④ 社会問題とアート		
第15回	まとめ 文化をいかしたまちづくり		
授業の運営方法	<p>授業は対面で行うことが基本となる予定です。 学生のうちオンライン授業を受講する場合には、毎週、音声付きパワーポイントを動画にしたものを、Youtubeに限定公開しますのでそれを視聴してください。 同じスライドを用いて対面授業を行います。 話す内容は基本的に同じですが、特に対面授業ではその場に応じて補足説明を加えたりする場合もあるため、対面授業とオンデマンド配信が一言一句まったく同じというわけではありません。 それはやむを得ないものと、ご了承ください。</p>		

	<p>授業の出席状況は、MicrosoftTEAMSで行う小テストへの回答で把握します。</p> <p>対面授業の際は、授業の最後の時間に、小テストへの回答と記入時間を必ず設けますので、その時に必ず回答するようにしてください。</p> <p>オンライン授業受講者の、小テストへの回答締め切り日は、第3回か第4回の授業終了時点で確定させたいと思います（履修登録者が確定した時点で、学生の要望を聞きながら決めます）。</p>	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題はすべてMicrosoftTEAMS上で提出し、返却します。	
成績評価の方法 ※次の評価基準・割合に基づき評価されます。		
評価の種類	割合（%）	評価方法、評価基準
定期試験	0%	実施しない
小論文・レポート	40%	学期末にレポートの提出を求める。40点満点で採点する。
授業参加	0%	特になし
その他	60%	毎回ポータルにおいて小テストを行う。1回あたり4点満点で、15回の授業で合計60点。
テキスト	特になし	
参考文献	岡本健『n次創作観光』NPO法人北海道冒険芸術出版、2013等。毎回の授業スライドのなかでお知らせします。	
関連ページ		
その他、履修生への注意事項	<p>対面であれオンラインであれ、出席状況の把握は、毎回行う小テストへの回答によって行います。回答期限については「授業の運営方法」に記載のとおりです。</p> <p>また、授業は3分の2以上出席しないと、最終レポートを提出しても成績評価対象にはなりません。さらに、成績評価そのものは、相対評価です。学生便覧をよく読んでください。</p> <p>また、授業受講中の、内容に関する質問、運営方法等に関する要望や苦情等は、ポータル機能を用いて問い合わせるようにしてください。メールは行き違いが発生するかもしれないので、用いませんから注意してください。</p> <p>なお、社会状況によっては、オンラインの授業が行われることもあるかもしれません。</p> <p>その際、通信環境が悪いと、授業理解度が落ちてしまいます。また、スマホなどの小さな画面では資料が良く読めないこともあり得ます。PCを用意し、大容量通信の環境を整えるようにしてください。</p>	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
実務経験のある教員による授業科目（令和2年度から該当科目に記載されます）		
実務経験の概要		
実務経験と授業科目との関連性		